



平成30年3月3日(土)

藤 棚

第349号

高校卒業式特別号

狭山ヶ丘学園 学校通信

<http://www.sayamagaoka-h.ed.jp/>
<http://www.sayamagaoka-h.ed.jp/js/>

卒業式辞 幸多き明日のために (要旨)

校長 小川義男

高校卒業の重さ 高校卒に伴う別れの重さ
卒業以後、再会する機会が極めて稀なのが高等学校
幸多き明日を

人生での成功 不成功は 些事
得意冷然
失意泰然

満ち潮だけの人生はないが、引き潮だけの人生もない

二十代の若さは、すべての立場に優越する
若さの前に恐れるべきものはない
この先 80年 燃えに燃えて人生を生き走り抜け

日本は大国であることを忘れるな
6000の島 領海 排他的経済水域
レアアース マンガン団塊 メタンハイドレート
海は陸の二倍半 この先、資源大国になる可能性も
海洋帝国主義に備えよ
島々の点在海域での制海権を失えば、すべてを失う

両親への感謝 特にひとり親への感謝
今日帰ったら卒業証書は親に示し、謝辞を述べよ

保護者への学校としての感謝

サヨナラは世界で一番美しい、別れの言葉
「左様ならば」 それではの意味
諸君 サヨナラ

朝鮮半島の平和を切望する

北朝鮮が、アメリカとの対話に、積極的姿勢を示している。アメリカが、北朝鮮の非核化以外の妥協に応ずることがないことを、北の指導者は熟知している。

にもかかわらず、ここで対話を申し立て始めているということは、北朝鮮の国情が、余程逼迫しているからではないかと思う。

六年前、私は 38 度線の休戦ラインを訪ねたことがある。かつて、休戦会談が行われた建物にも入った。内部にも、国境線(停戦ライン)が引かれてあり(目に見える線ではないが)、南北それぞれの兵士がそれを守っていた。

驚いたのは、韓国側の山が緑で青々しているのに、北朝鮮側の山は、線でも引いたように枯れ山続きだったことである。燃料に使ってしまったのかも知れない。あれでは洪水にもなるし、干ばつにもなる。北の政治の何たるかを見る思いがして辛かった。

その後、今の金正恩氏の政権になり、政治、国民への締め付けが、一層厳しくなったようである。「政権を、彼の兄へ移したい」と、中国で語ったと言う理由で、金氏は、実の伯父を高射砲で撃ち殺したと言うから凄い。そして、その兄が、マレーシアで殺害されたことも、今では有名である。

多くの経費が、首都の記念物や建物に使われ、そうでなくとも苦しいところに、ミサイル建造、発射、核兵器開発に金を使うのだから、人口二千万ほどの小国の経済の破綻しないわけがない。

強がりの演説ばかり続いていたが、ここへ来て、「アメリカとの対話の用意がある」と言い始めた。国内が、経済的に極度に逼迫してきているのではないかと私は思う。

北朝鮮は寒い。石油がない。暖まるための毛布だって、極度に不足しているのではないか。餓死、凍死が多発しているのではないかと憂慮される。

1950 年、突如として 38 度線を突破して、南へ大軍で乱入したのは北朝鮮である。油断していた韓国軍、連合軍は、敗退に敗退を重ね、釜山から日本海へ追い落とされるところであった。朝鮮戦争が、北による戦争行為であったことは、この消息からも明らかである。当時私は、高校三年生であった。

マッカーサーの、仁川における奇襲上陸で情勢は一変する。

北朝鮮は、この戦争が休戦に持ちこまれた後も、ラングーンでの韓国閣僚の爆殺、日本に隠密裏に上陸し、多数の日本人を拉致、誘拐する等を繰り返した。世界で、最も危険な国家だと言えるかも知れない。

その北朝鮮が、アメリカとの対話に応じたいと言うのだから、これ以上は支えきれないほどに、国内が、物質的に荒廃しているのであろうと思う。

極東の平和を心から望む。北朝鮮政権当事者は、核兵器や軍事力で、己を守ることはできない。核戦略さえ放棄すれば、世界は、温かい救援の手をさしのべるであろう。

オリンピックを終えた後の朝鮮半島が、平和で穏やかな方向を目指して下さる事を、心から切望する。